

さわかぜ

sanwa chiku-syakyo

発行責任者: 三和地区社会福祉協議会
 会長 福田 隆一
 編集責任者: 広報部長 川上 保
 事務局: 三和保健福祉センター内
 (サンハート内)
 電話: 0436-37-7100

ふれあい福祉事業の展開

足並み揃え三和地区・四小域福祉ネットワーク(市西、養老、海上、光風台)

歳末たすけあい募金からの助成を原資に、三和地区各小域福祉ネットワークでは、この年末に、それぞれが地域福祉事業に取組みます。内容的には、安心生活見守り対象者や高齢者、高齢独居の方々等、地区に於ける対象層は異なりますが、それぞれの地域事情を背景にし、各NW推進委員会の企画に沿った取組みとして展開されます。

「市西地区」
訪問活動通し
声なき声を拜聴

本年歳末より、他地区同様、歳末たすけあい事業を展開致します。

市西地区では、現在十三名の安心訪問員が、四十三名の高齢者の見守り活動に取り組んでいます。今回は歳末見守り訪問に際し、粗品防災グッズをお配りしながら、高齢者の「声なき声」を拜聴し、今後の地域福祉事業へ反映してまいります。具体的には、十二月十日

七日のNW推進委員会に於いて互いの分担を確認し、歳末の福祉事業へとつなげてまいります。

「養老地区」
健康気遣い
NWと絆深める

あったかネット養老では、歳末福祉事業として、高齢者の健康管理に役立てて頂くよう、マスク・除菌スプレー・ホッカイロを一セットにしてお配りしています。また、配布時には養老小学校の子供達を書いてくれたクリスマスカード

も添えて、各町会長・民生委員の方々が配布対象のご家庭を訪問します。月次の見守り事業に併せて、体調の様子やお困りごとなどを伺いながら、地域にお住いの住民の皆さまと、ネットワークとの絆を深める事業としていきます。

「海上地区」
地域のみんなが
寄り添う事業に

当地区では安心生活見守り訪問員二十名の方々が、三十名の訪問希望者を対象に、月次訪問活動

2023年度 賛助会員募集 事業御礼

本年度、三和地区社会福祉協議会として、7月以降、取組んで参りました賛助会員募集事業の結果につきましてご報告申し上げます

皆さまの温かいご理解とご協力の下、個人会員ご協力者様145口、団体ご協力賛助者様185口、合せて330口(330,000円/10月20日現在)を集計するに至りました。

ご協力を賜りました皆様に、心より厚く御礼申し上げますと共に、地域に於ける社会福祉活動の更なる充実に向けて役立てて参ります。ご協力、誠にありがとうございました。

〔賛助会員募集事業集計結果(地区別)〕

	個人会員 口数	町会等 団体口数	合計
市西地区	48	53	101
養老地区	44	51	95
海上地区	10	61	71
光風台地区	43	18	61
地区合計	145	183	328
向日葵(包括ケアセンター)		2	2
総計	145	185	330

※金額換算は口数×1,000円/1口



(場所を取らずに遊べるけん玉)



(対戦形式で白熱したおはじき)



(コツさえ掴めば舞う竹とんぼ)



(しっかり巻くところポイントのコマ)



(昔は墨塗りもあった羽子板です)

用意された昔遊びは、けん玉・おはじき・竹とんぼ・コマ・羽子板の五種目。高校生側は二十四、五名を一組単位に、三組がそれぞれ五十分程の時間で各種目を体験。地区社

五つの遊びを準備

※けん玉↓昔やったこともある生徒もいて、指導員を凌駕するつわものも。*おはじき↓初めて目にする生徒が大半。シート

コツを掴むと湧き出る歓声

上で白熱した競技体験。*竹とんぼ↓これも初めての生徒さんが大半。でも、コツを掴むと舞い上がる様に思わず歓声が。*コマ↓糸を巻くのにま

協働からは、九名が指導役として、共に交流を深める一日となりました。

去る九月二十六日、市原高校に於いて、生徒さんと地区社協が一緒になって、習遊びを学ぶ会が開かれました。これは、県社協・県教育庁の指導指針に基づく福祉ボランティア教育の一環として、若い方々にも地域社会に於ける福祉活動への理解と、参加の機会を広げる目的に沿って開催されたものです。

千葉県福祉教育プログラム 学校(小中高)と社協の取組み連携

に取組んでいます。取分け、十二月は歳末福祉事業として、両者の絆をより深める取組みとして、贈答品(焼き海苔)をお配りしています。十二月十日、訪問員フ

オローアツプ研修を開催

「光風台地区」 歳末福祉は地域ぐるみで

光風台では七十歳以上(二百三十余名)の独居の方々を対象に、「クリスマス菓子の宅配」を歳末福祉事業として行います。また、お菓子に添えら

れた子供たちのクリスマスカードが感銘を呼び、たくさんの方々よりお礼の声が寄せられました。こうしたことから、本年は、小学生のみならず、双葉中の生徒さんも活動に加わって頂けることになりました。ネットワークのメンバーや民生委員はもとより、小中学生を含めた地域ぐるみでの歳末高齢者福祉事業へと取組みの輪(和)が広がっています。



(季節外れの暖かさに賑わった会場の様子)

三和地区社協はじめてのフリーマーケットに取組む



(社協初取組みの出店ブース)

両日共に、この時期とは思えぬ暖かな晴天に恵まれ、賑やかな開

三和地区社協は、新たな地域交流事業として、フリーマーケットを企画。その初の試みとして、十一月四日・五日(土日)のサンコミ祭りに出店参加し、地域の理解と交流を深める一助としました。

催となりました。今回取組んだフリーマーケットは、従来の福祉バザーが献品(無償)による出品で構成されてきたのに対し、基本的に有償での出品を募り、売価も出品者自身が決定。したがって、売却金は出品者に帰属し、その売上金の中から任意の金額を社協の福祉活動費としてご寄付頂くと異なる特徴点です。

概ね売上金の10%程度を寄付とする出品者が一般的でしたが、中にはバザー同様全品寄附として、売上金受け取りを遠慮される方もおり、結果的に社協福祉活動費に寄せられた金額は七万四千二百八十円が計上されるに至りました。初めての試みでもあり、出品者側の遠慮も見受けられました。フリーマの趣旨をご理解頂き、応分の対価を受け取って頂けるよう、今後の運営への課題としてまいります。次年度の更なる充実開催に向け皆さまのご協力をお願い致します。

市西地区小域福祉ネットワークでは、10月24日から、買い物ツアーの取組みを開始しました。三和地区では光風台に続き2番目の取組みとなりますが、残る2地区(海上・養老)も今後へ向け検討を進めています。



【NW推進委員がお供に】



【国分寺台せんだうに到着】



【いざカートを押して買い物へ】



【お疲れ様と帰宅もお供】

地域の高齢化対応策として期待の高まる買い物ツアー。先行展開中の光風台に続き、このほど市西地区でも試行的な運航がスタートしました。

この取り組みは、地域の社会福祉法人・三和会の特別養護老人ホーム「あじさい苑」の協力(車両・運転者・保険の提供)を頂き、市西地区の小域福祉ネットワークが利用者のサポートを担う。この度は、武士町会・三又町会の三名の利用希望者を対象に、買い物のお送迎に

利用者からも好評の声。今回、この制度を利用された方々に感想を伺うと、「自分の目で見て買い物が出来、本当にありがたかった。」「または是非参加したい。」「皆さんとの会話が楽しかった。」との好評を頂

同地区ネットワーク高山会長は、「毎月第三火曜日・月一回のサイクルで、来年三月まで試行してまいります。」「来年四月以降は、制度の定着へ向け、利用者の声や希望者の推移を見守りつつ、今後の対応を進めて行きたいと考えています。」と抱負を語ってくれました。制度の問い合わせは、地区民生委員又はネットワーク推進委員まで。

市西小学校区小域福祉NW

買い物ツアーの試行スタート！地域高齢者福祉の期待担う

あじさい苑の協力を得る

利用者からも好評の声

実施サイクルは毎月第三火曜日

きました。

回顧録

第5弾



元千葉県警察本部

水上警察隊

統括船長

佐川 良晴

シリーズ④(最終)



津々浦々の海上監察

四十二年四月、私は本庁燈台部所属船である若草へ異動した。若草は、全国の主要な燈台の業務監察と、必要物資の配布が任務。四月早々から三か月をかけ本州を回る任務につき、その後も夏は伊豆七島・北海道を回り、秋は九州と周辺諸島、冬は四国と瀬戸内海沿岸を回る予定が組まれ、三年間に亘り日本を周回した。

四十二年四月になると、海上保安学校研修科への入校を命じられ、九月までの六か月間、船舶幹部育成を目的とした研修に臨んだ。その結果、海技士免状の取得と合わせ、成績優秀の表彰とともに特別昇級を受けることが出来た。四十四年七月、私は千葉海上保安部に移動となり、「ゆきかぜ」という巡視艇に配属とな

った。着任早々、大捕物が待っていた。木更津・川崎間のフェリー内で、賭博が開かれるとの内定調査から、二十数名を現行犯逮捕。もう一件は大型船に給油する五百トン級タンカーがC重油を温めて、増量分を転売していた事件で、関係者全員を背任罪・ぞう物故買罪で一斉検挙した。

その翌年(昭和四十一年二月四日)起こった痛ましい記憶も蘇る。それは四日の夕刻、私が当直勤務で受けた突然の電話から始まる。「羽田沖に旅客機が墜落した模様、各船は直ちに同海域へ向え！」の指令だった。帰宅途中の者も含め、非常召集を発令。出航準備を整え、現場海域へ出動。東京湾は穏やかな月の光に満ちていた。先行艇からの位置情報に基づき集結した各船は、搭載艇での救助活動に奔走したが、結果は乗員・乗客百三十四名全員の死亡が確認される当時として最悪の航空機事故だった。

その頃、千葉県警は、成田空港開港をめぐる過激派対策が重視され、千葉港沿岸の燃料基地や空港関連施設の防衛対策として大型警備艇導入と、その船長を求めた。白羽の矢が私に立ったものの、保安庁側からの強い慰留もあり、正に板挟み状態だった。四十五年になり、保安庁と千葉県警との人事交流が決着。同年七月一日付けで私の千葉県警転出が決まった。県警転出後の船長としての体験や、様々な思い出を原稿上では綴って見たものの、それらの掲載は、紙面制約はまともに入りた。退職したのは、平成十七年の三月。四十二年間に亘る法に基づく海上に於ける公務執行家庭のことは、全て妻まかせ。口には出さないうが、本当に感謝している。今後は妻共々地域の人々との交流を図り、社会貢献出来ればと願っている。

勧誘と慰留に揺れる心